

7月7日月曜日の七夕・町一斉挨拶運動では、ほとんどの野球部の生徒や他の生徒でも立ち止まって挨拶ができる生徒を目にした！

しかし、最近は挨拶すらできない若者が増えていると言われる。そして、現在の日本で「江戸しぐさ」を見つけることはほとんど無くなってしまった。

「商人道"江戸のしぐさ"の知恵袋」 越川禮子

これは、往来パフォーマンスで江戸庶民の心遣いを行動で表したものである。

① 「傘かしげ」

雨の日に狭い道ですれ違うときは傘を外側に傾けて通りやすく。



② 「肩ひき」

狭い道をすれ違う時、傘かしげと同じで、右肩を引いてお互いがスムーズに通れるようにする。

③ 「こぶし腰浮かせ」

電車などで混雑してきたときに、こぶし一つ分腰を浮かせれば少しでも移動すれば、座るスペースを作ることができる。

目上に対してだけやるのではなく、江戸しぐさは目上、目下に関わらず同じように譲り合う行為。認め合う行為である。

また、「働く」とは「はたを楽にさせること」。江戸の普通の暮らしは日の出に始まり、日が暮れて終わる。「朝飯前」とは朝ごはんの前に向こう三軒両隣(近所)の付き合い仕事(庭先の掃除や挨拶など)を済ませた。午後から「働き」をして江戸の町に奉仕して、夕暮れからは「明日に備える」＝「明日備(あすび)」＝「あそび」でリフレッシュした。

このように、日ごろから相手を気遣って行動できる生徒になってもらいたい。入社・入学試験に合格する人としらない人も、日ごろが大切だ。合格しない人は、言葉にしる、格好にしる、付焼刃では役に立たない。人事のプロが見ればすぐ分かる。合格する人は、日ごろの態度が無意識に行動にでるそうだ。

そういえば考査中、机上の消しゴムのカスを集めて、終わったらそれを手に取りゴミ箱に捨てに行く女子生徒を見かけた。日ごろとは、こういう生徒の行動を言うのだろうと、感心して見ていた。

"心が、姿や行動に表れる！さあ、きょうからがんばれ！"